生涯学習情報紙 第59号（令和5年7月1日発行） 会報

自遊學

編集・発行
生涯学習をすすめる所沢市民会議
〒359-0042 所沢市生涯学習推進センター内
TEL:04-2991-0303 FAX:042991-0306
http://www.manabi-tokoro.com/

「令和五年度定期総会が開催されました」

五月二十一日十三時から定期総会が行われ、二十一名の委員が出席し、来賓として生涯学習推進センター長の藤巻幸子様のごあいさつを受けました。その後、昨年度の活動報告、会計報告があり、拍手により承認されました。続いて、五年度の役員体制案、活動方針案、予算案が提案され、いずれも承認されました。コロナ禍も落ち着きを見せ、多くの委員がマスクを着けていないため、久しぶりに委員のお顔、表情を見ながらの総会でした。本来なら議決のあとに意見交換の時間を設けたいところでしたが、あとに「まちづくりフォーラム」を予定していたため、後片付けもそこそこに別会場に多くの方が移動され、一緒にフォーラムを盛り上げてくれました。なお、承認された令和五年度の役員体制は以下の通りです。

会長：川地　武
副会長：久保田恵子
会計：佐藤聖一
幹事委員：上記三名のほか、越阪部征衛、鈴木延子、茂出木正和、佐藤美津子
監事：加藤敏恭、栗原聡美

語り部養成講座「ところ学」閉講

前年度に引き続き、令和四年度も養成講座の受講生募集を行い、男女合わせて十一名の応募者がありました。平均年齢七十二歳の受講生は八月二十七日（土）開講、三月十八日（土）閉講迄の十四回にわたり「所沢を学んで所沢を語ろう」を基本に所沢の歴史・文化等に詳しい講師から講義を受けました。また後世に引き継ぐ歴史ある話題豊富な所沢の町を見て歩きました。そして、実演発表では講師から学んだ数々の話題を基に語るテーマを設定し語りました。受講生は七ヵ月間のコロナ禍の中の講座を終え、閉講式の三月十八日（土）には九名の受講生が会長から修了証を授与され、受講生代表から「これからは学んだ数々の話題を市民の皆様に語り継ぎ所沢のまちづくりに貢献します」と強い決意表明がありました。

第九回まちづくりフォーラムを開催

五月二十一日「子どもが育つ地域をめざし」をテーマとした第九回のフォーラムが開催されました。子育て、少子化対策として保育、教育への経済的助成の必要性が叫ばれ、政府では様々な子育て支援策が模索されちます。経済施策や施設とならんで地域が子育て、子育ちを支える所沢になるには何が必要かを関係者と考えたいとの意図から、現実に子育て、教育現場でご活躍の三氏に話題提供願いました。

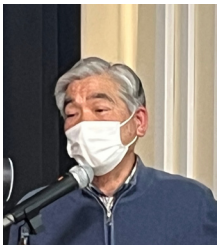
最初に登壇された中島秀行氏（所沢市教育長）からは教師経験も踏まえ、現場の実態が紹介され、教員のオーバーワークや部活の負担はあるが、メディアに振り回されないことも必要とのこと。また、コロナ禍で生徒にはタブレット端末が行き渡ったが、その効果

は十分ではないことなど紹介された。次の神谷一彦氏（所沢高校教諭）は高校生を地域に放ち、主体的な学びの契機、課題探しを地域のロータリークラブの活動の一環として進めていることが紹介され、所沢には市内の会社や行政機関に所沢高校のＯＢがいて、活動しやすい環境があり、建学百五十年になる伝統校の校風は今も生きていることを実感されている。最後の清水康平氏（NPO 所沢地域ネットワーク）は放課後の子どもたちの居場所作りに奔走されているが、その支援者も大学生、高校生とのことで、すでに部分的ながら「地域で子育て、子育ち」を支援する動きが始まっているようで心強い。

会場からは事前に配布した質問票が回収され、質問、ご意見は十二枚ありましたが、講師の皆さんに分担して返答してもらい、充実した意見交換もできたと思います。ただし、今回のテーマ「子どもが育つ地域をめざして」は今後も継続して考え、世代を超えて議論すべき課題であることを実感したフォーラムとなりました。

名人・達人に聞く会開催報告

第66回「植物観察を楽しむ」



講師　高杉茂氏

やはり人柄でしょうか、参加者に寄り添い温もりが伝わるように、話が始まりました。

植物観察のきっかけは、なんと小学校五年生の時に、植物図鑑と出会い、庭の花、畑・道端の草花の名前を覚え始めたことです。まず、植物観察のポイントは、花の名前を覚えて、写真に記録することである。

次に、日本で一番美しい花は、「リシリヒナゲシ」、埼玉で一番美しい花は、「ベニバナヤマシャクヤク」を紹介され、高嶺の花であると喜びを語られています。

更に、花のつくりは、キク科の花を例にして、高杉氏独自の初心者にも分かり易い分類名を説明され、また「ムラサキサギゴケ」でめしべの柱頭運動について話された。印象的なフィールドは、関東では珍しい準絶滅危惧種の「マツバラン」との出会い、飯能の絶滅危惧種の植物観察、菩提樹池で田んぼの草花との出会いを語られた。これからも絶滅危惧種、生態系を心配しつつ、植物観察の楽しさを、「いつも新しい発見を、希少種との感動的な出会いを」歩んでいきたいとの熱い思いを！

質問の時間も大いに盛り上がり、五人の質問者に丁寧にお答えされ、終了後も対応されました。

（尾野正夫　記）

第74回「市民の農業体験をささえて」

講師 平井 喜代志氏

前日の雪に開催が危ぶまれたものの、当日は朝から快晴に恵まれ、大勢の聴衆で別室視聴も大入り状態の盛会でした。お話は十七年に及ぶ「ふれあい農園」の開設から閉園までの経過でした。開設の際には土作りのために落ち葉堆肥作りから始め、初心者でも収穫の喜びを体験できるよう、周到に準備された年間の作業手順書（レシピ）に沿った農業が実践されたとのこと。また、参加者が交流できるよう各種イベント（収穫祭、豊作祈願、優秀表彰、もちつき等々）が企画され、ユニークな体験農園ライフだったようで、ＪＡ等から表彰もされたそうです。所沢には遊休農地も多く、農業の達人も多いのですから、こうした農業体験を通じた地域ふれあいの促進も期待できると思った例会でした。

（川地　武　記）

第75回「安松ざるを作り続ける」

安松ざるの唯一の作り手となった越阪部栄さん。ざるは女性の方が馴染みがあったためか、女性参加者の多い会となりました。まず、弟子の越坂部幸子さんから竹の活用の歴史や文化、安松ざるの話があり、ついで栄さんがざるの作り方を説明されました。

講師　越阪部栄氏

お待ちかねの実演では、参加者が栄さんを囲み、ざる作りの工程を食い入るように見学しました。竹を切り、割り、刀で裂いて「ひね」（竹ひご）を作り、編んでいく。時折笑いも交えながらの軽妙な語り口調で「簡単だ」と言いながらの実演です。手刀を扱うが、ひねを作れるお弟子さんはいないそうです。

その後、二箇所で希望者がざるを編める場所を設けたのは大好評でした。この会は聞くだけが通常ですが、参加型の会も増やせたらと思いました。（粕谷雅子　記）